

# 介護事業部 ヘルパーセンター 好事例シリーズ⑫

「ヘルパーと一緒に  
行うことで、  
出来ることが増えた」

～事例分類～

健康状態 / 理解・行動 / ADL /

家事・IADL / QOL / 介護状況

ヘルパーさんとのかかわりが  
どんな変化をもたらしたのか、  
読んでみるまも♪



スライド全6枚

## 【事例情報】

○70歳前半 ○男性 ○介護度2

【Before】平成30年12月頃

市内に住む弟様が、週1回、仕事の合間をみて訪問していた。遠方の仕事もあり片道5時間かけてくることもあり、支援にも限界があった。ご本人は炊飯は出来るが、合数が数えられず、ガスの使用が困難。食事は弟様が用意し、作り置きを食べていた。



【After】令和3年2月上旬

繰り返しヘルパーと一緒に家事を行う事で、調理の手順も覚え、一人で出来るメニューも増えた。ヘルパー訪問前に調理の準備をして待っており、訪問中は一緒に台所に立ち、手順の声掛けをすることで調理することができる。包丁を使い野菜も切ることも可能。

掃除の方法も覚え、ヘルパーが来る日は掃除機をかけて待っており、一緒に掃除や、調理をすることが楽しいとお話される。



# 経過

阻害要因・背景	サービス・ケア内容	サービス提供のねらい
<p>療育手帳交付されている。 独居生活。家事の手順がわからない。弟様が2週間に1回訪問し、食材を届けてくれる。</p>	<p>週3回 訪問介護にて家事・調理支援。安全に配慮し、わかりやすく細かな手順の説明する。</p>	<p>ご本人様と一緒に繰り返し家事を行いながら、家事動作を覚える事が出来る。</p>
<p>弟様が、大量に同じ食材を購入して届けており、賞味期限の短い豆腐・もやし等も多い。</p>	<p>食中毒の注意喚起と食材管理の支援。早く使った方が良い食材に配慮した調理支援。</p>	<p>何度も声をかけることで、食材の管理に注意してもらおう。冷蔵庫内で保存する・早く食べる習慣をつけてもらおう。</p>



# 事例提出者からのアピールポイント

項目	内容
担当ヘルパーに確認	食材の状況、声掛けしたご本人の様子を特記事項に細かく記入して頂くようお願いした。活動中のモニタリングを実施し状況把握に努めた。
ケアマネジャーへ連絡	弟様が購入する食材の量を確認し、食材を無駄にしないようにケアマネジャーから弟様に適量を伝えてもらった。
障害の特性をふまえた長期的な関り	平成28年のサービス開始から、担当者が変わっても、ご本人のペースに合わせ、わかりやすい説明を継続した。結果、自立支援に繋がり、ご本人から感謝の言葉を頂くことができた。

## 💡事例へのコメント💡

療育手帳が交付されている事例であり、本人の理解力にあわせて関わり方を工夫する必要があります。ヘルパーとサービス提供責任者、ケアマネジャーがチームとなり調理の手順や食材の選択など、支援のポイントを把握し、本人のペースに寄り添えた支援ができています。特に声掛けを大切にして繰り返し家事を一緒に行う事で家事動作を獲得できたり、弟様との連絡を密にすることで食材のロスが減らし効率的な調理が行えるなど丁寧な対応が図られています。また、ヘルパーが来ることを楽しみにして、率先して訪問前の準備をしてくれるなど自立支援にもつながっており、とても参考になる事例でした。

【札幌市社会福祉協議会 地域包括部】



# 私たちと一緒に 働きませんか♪

お友達を紹介して  
ほしいまも

あああ  
ヘルパー募集のご案内はこちら！



社会福祉法人札幌市社会福祉協議会  
介護事業部



まもりん